

学校と地域保健の連携による子どもと家族全体への支援

看護学部 寺川 えり子

キーワード

子育て、学校保健、地域保健、発達障害、家族ネウボラ

研究概要

本研究では、学齢期において、何らかの支援の必要な子どもとその保護者に対して、子どもの支援をきっかけに、学校と地域保健との連携により、子どもとその家族全体を包括的に支援することを目的としています。

フィンランドの家族ネウボラの仕組みを参考に、多職種連携による子どもと家族の支援について考えています。

保健師が包括的にアセスメントし、学校と地域保健、福祉をつなぐ役割を行うことで、子どもの支援をきっかけにその家族全体の支援へとつないでいくことができ、地域社会全体のソーシャルキャピタルの醸成へとつながると考えています。

アピールポイント

母子保健からの連続性を持たせた、学齢期(思春期)保健については、母子保健と学校保健との連携が重要になってくると思います。

教育と保健師、小児科医などの医療職や福祉職などの多職種連携により、包括的に支援に取り組むことで、地域で生活する子どもとその保護者含めた家族が健やかに過ごせる地域になると考えています。

応用分野

子どもの支援のため、保護者対象にペアレント・トレーニングの実践。